

平成28年度 JABTS 事業活動報告

1 編集委員会 尾本きよか

平成28年度は、学会誌出版に向け、委員会を開催し、7月には、第5巻3号を発行した。

平成29年1月には、第6巻1号を発行した。

2 財務委員会 矢形 寛
なし

3 教育委員会 田中久美子

平成28年5月 JABTS36

教育委員会開催 インターベンション講習会の進捗等

教育委員会企画 極めるシリーズ「微細石灰化」

平成28年9月 JABTS37

教育委員会開催 極めるシリーズの検討、インターベンション講習会の進捗

教育委員会企画 極めるシリーズ「肉芽腫性乳腺炎」

このほかに臨時の教育委員会や委員会活動は行っており、学会での会議費以外に予算は使用していません。

4 広報委員会 橋本 政典

- ・ 学会誌のPDF版の掲載
- ・ 事業計画の掲載
- ・ 学術集会の終了処理など
- ・ 新理事など更新・役員一覧の改訂
- ・ 古くなったバナー・学術集会のリンク切れの修正
- ・ 委員会・研究部会と責任者更新
- ・ 学会誌最新号掲載
- ・ H27年度活動報告UP
- ・ お知らせの整理

5 会則委員会 古川まどか

平成28年度は、会則 細則に関して変更や見直しを検討すべき事項は特になく、会則および細則に基づいて学会の運営が滞りなく行われていることを確認した。

6 国際委員会 東野英利子

1. JABTS36 においてAFSIMBとの共同企画としてシンポジウムBreast Screening by Ultrasoundを企画した

シンポジスト

日本 鈴木昭彦

J-START結果報告と今後の課題

日本 東野英利子

日本における超音波による乳がん検診のための教育プログラムと資格認定システム

韓国 Woo Kyung

The Clinical Outcome in Breast Cancer Patients Detected with Screening Ultrasound in Korea

ネパール Birendra R

Significance of Sonographic Screening for Breast Cancer in Nepal

2. JABTS37において

国際委員会企画 「海外における乳房画像診断ガイドラインの紹介」を行った。

植野映 BI-RADS® US

広利浩一 Performance and Practice Guidelines for Breast Ultrasound(アメリカ乳腺外科学会のガイドライン)

柏倉由実 Breast Imaging: a Guide for Practice
(オーストラリアとニュージーランドの放射線学会の乳房画像診断のガイドライン)

東野英利子 The Royal College of Radiologists Breast Group
breas imaging classification

(イギリス放射線学会乳房画像グループのカテゴリー分類)

加奥節子 Minimum Training Requirements for the Practice
of Medical Ultrasound in Europe

3. 海外に日本の超音波講習会を紹介することを念頭に講習会の講習資料の英訳を行った。

7 乳腺用語診断基準委員会 加奥 節子

<BC-04: 乳房腫瘍の超音波診断におけるカラードブラ法判定基準作成およびその有用性に関する多施設研究>

画像登録数は1400例、2016.2.~5.にかけてBC-04の読影方法についてのレクチャーを数回施行、8月下旬より読影開始し、12月初旬に全員の読影が終了、現在データ解析中である。読影にはフローイメージング研究部会からも4名ご協力頂き、25名で行った。現在、基本的な因子の解析は概ね終了し、WFUMBに数名の委員が発表予定である。

<BC-02: 非浸潤性乳管癌(DCIS)の超音波画像分類に関する多施設共同研究>

渡辺隆紀委員の論文がUltrasound in Medicine and Biologyにアクセプトされた(Impact factor: 2.298)。

Title: Ultrasound image classification of ductal carcinoma in situ (DCIS) of the breast - Analysis of 705 DCIS lesions / JABTS BC-02 study -BC-02についてはもう1編の論文が近日中に完成予定である。

8 甲状腺用語診断基準委員会 鈴木 眞一

1. 甲状腺超音波ガイドブック改訂3版 出版後、再修正作業

2. 同、韓国語版出版

3. TC—01 甲状腺結節に対するドプラエコーの有用性に

ついでの前向き試験に向けて

4. 診断の進め方(超音波による精査基準)の英語論文化
5. 福島県「県民健康調査」の甲状腺超音波検査への支援
6. 福島県医師会による超音波講習会及び認定試験への支援
7. 第59回日本甲状腺学会での甲状腺エコーハンズオンセミナーへの支援(2016年11月4日虎ノ門ヒルズ)教育委員会合同

9 | 倫理委員会 森島 勇
 理事会からの審議事項がなく、活動はありませんでした。

10 | 利益相反委員会 大貫 幸二
 1)「学術集会」の演者、「機関誌」の著者については、特に違反の報告はなかった。
 2)「役員等の利益相反自己申告書」は提出者83名であった。
 3)「役員等の利益相反自己申告書」提出者の中で、COIの申告があった2名については、その状態の判断ならびに助言、指導のため、個人情報の保護に留意し、委員長と委員のダブルチェックで内容を確認した(第37回学術総会時に実施)。その結果、特に問題となる事例はなかった。

11 | 学術委員会 椎名 毅
 1. 編集委員会(Editorial Committee)等の11委員会および乳がん検診研究部会(Research Group for Breast Cancer Screening)等の8研究部会の、英語表記について協議し、理事会に提出した。

2. 第1回学術委員会(平成28年4月2日、聖路加国際病院)を開催し、以下の事項について協議した。

(1)研究部会について

- ・今後の新規研究部会の申請方法及び手順について
- ・継続申請「フローイメージング研究部会」の審議・審査
- ・新規申請「甲状腺結節D/W研究部会」の審議・審査

(2)委員会について

- ・各委員会の事業報告、決算報告、事業計画、予算書の確認
- ・学術委員会内規の確認
- ・委員会主催講演時の招聘講師に対する謝礼について

(3)その他の検討事項

- ・委員会・研究部会の予算調整
- ・学会誌の広告依頼について投稿論文について
- ・事務局から

旅費請求の追記事項の確認

航空券旅費の取り扱い

事務局職員の身分・給与、障害保険等について

3. 第2回学術集会(平成29年2月18日予定)を開催し、研究部会の29年度の設置、および継続の可否等について審議。また、次年度における研究部会活動の円滑な運営と活性化に向けて検討課題を協議。

12 | 乳がん検診研究部会 坂 佳奈子

1. ガイドラインの要精査基準のパートを英訳し、英文のガイドラインとして日超医英文版オンライン2016年2月16日に掲載された。

Terminology and Diagnosis Criteria Committee, Japan Society of Ultrasonics in Medicine. Recall criteria for ultrasound breast cancer screening. J. Med Ultrasonics. 2016;43:301-13.

2. 検診フローチャートの検証というテーマでJABTS35にてシンポジウムを行ったが、その際に発表した5施設のデータをまとめて日本超音波医学会の英文版に現在投稿中である。

Verification of recall criteria for masses detected on ultrasound breast cancer screening

3. 超音波検診の実態調査を日本乳がん検診精度管理中央機構と合同で、2016年2月～3月にかけて行い、JABTS37川越にて発表した。現在、HPにて結果を報告中である。今後論文としてまとめる予定である。

13 | インターベンション研究部会 矢形 寛

2009年5月にインターベンション研究部会より発行された「乳腺超音波ガイド下インターベンション手技マニュアル」は、手技の標準化や普及に一定の効果を及ぼしたものと思われる。6年が経過し、デバイスの多様化を含めた改訂が必要と考えられ、2016年11月「インターベンション研究部会より乳房超音波ガイド下針生検マニュアル」を発行した。それに当たり、2016年10月の学術集会において、本内容の概要を報告した。

14 | バーチャルソノグラフィ研究部会 明石 定子

1) FUSION01報告

症例登録を完遂したFUSION01 試験結果をJABTS36, 37の研究部会企画で発表した。ヨーロッパ放射線医学会2017年3月(口演)、および第25回乳癌学会で中野正吾先生が発表予定である。英語論文も現在作成中である。

2) FUSION02/03企画及び班会議の開催

RVSの有用性を検討する次の多施設共同試験を企画する。JABTS 37での会議にUS-USのfusionによる正確な画像評価により早期PD判定の試験を計画したが、統計の専門家に相談したところ、300例の登録が必要ということが判明し、断念した。現在、術前内分泌療法の症例における安全な乳房温存術を目指すFUSION03を検討中である。

15 | フローイメージング研究部会 平井都始子

1. 「乳房超音波診断におけるカラー Doppler 判定基準作成およびその有用性に関する多施設研究(JABTS BC-04)」で、画像中央判定を用語診断基準委員会の委員と協力して実施した。

2. JABTS34・35で報告した、2015年乳房造影超音波検査アンケート調査結果の論文化を進め乳腺甲状腺超音波医学へ投稿

予定。

3. JABTS36においてワークショップ「乳房造影超音波のプロトコルとレポートの標準化に向けて」を行い、その内容をフローイメージング研究部会報告として学会誌に投稿した。

4. JABTS37においてワークショップ「まずは見てみよう！造影超音波検査(良悪性鑑別編)」をおこなった。その内容を学会誌に掲載の予定で進めている。また、造影超音波を用いた乳腺病変の造影パターンについて多施設で症例を集めて研究を継続するため研究部会設置(継続)を申請する。

5. 乳房造影超音波における乳がんの広がり診断に関する研究について検討し、来年度新たな研究部会として申請し、活動する予定。

6. 皮膚・皮下腫瘍のフローイメージングの研究を多施設で開始するための準備をする。

16 BC-03研究部会 中島 一毅
2016年は、データ解析と論文を作成(現在、まだ未完成)
2016年のJABTSで結果について報告。
2017年のJABTSでも一部データの別解析結果を報告予定。

17 乳房超音波エラストグラフィ研究部会 椎名 毅
1. 第1回研究部会開催(5月29日7:30~8:30 京都国際会議場)昨年度に引き続き、乳房超音波エラストグラフィのガイドラインの改訂作業を進める上で、関連論文の調査など各自の担当を確認した。
2. 「超音波エラストグラフィQ & A」の企画
超音波エラストグラフィの精度管理の視点から、臨床でエラストグラフィを用いた際に疑問や質問に、対応できる場を提供する目的で、JABTS37における「超音波エラストグラフィQ & A」を企画した。
3. 第2回研究部会開催(10月15日, 8:10~9:00 ウェスタ川越)
「超音波エラストグラフィQ & A」に関しホームページでの質問募集で集まった質問内容と、特別企画での回答について協議した。
乳房超音波エラストグラフィのガイドラインの改訂作業については、日本超音波医学会の体制が変わったことを受けて、今後、取り組むべき課題について協議した。

18 Us Hands On研究部会 白井 秀明
平成28年度Hands on研究部会では、昨年度と同様、JABTSなど学術集会におけるHands on講習会の定着化とそれによる教育効果の判定、および具体的な実施方法や成績評価方法について検討すべく、下記の日程で部会会議を開催し、その内容をもとにHands on講習会を開催いたしました。

【研究部会会議】

H28. 5. 29. 第36回JABTS(京都府京都市)

H28. 9. 4. 東京医科大学病院(東京都新宿区)

H28. 10. 16. 第37回JABTS(埼玉県川口市)

【Hands on 講習会】

H28. 11. 4. 第26回日本乳癌検診学会(福岡県久留米市)

部会会議では事業計画案に基づき、Hands on 講習会の内容の検討と、その教育マニュアルを作成するための協議を行いました。その結果、マニュアル作成にはかなりの時間がかかると予想されたため、今年度のHands on 講習会はこれまで通りのやり方で行う事とし、第26回日本乳癌検診学会において本講習会を開催いたしました。その結果は前回までの講習会結果と併せて論文化する予定です。

なお昨年度(JABTS品川)のHands on 講習会の効果については、検討の結果、講習後のB-mode画像に改善が見られた受講者はおおよそ9割と非常に高く、それまでの講習会の結果と併せて第26回日本乳癌検診学会においてその成果を発表いたしました。

また今年度の講習会についてのアンケートでは、「有意義であった」、「今後も続けて欲しい」などの解答が圧倒的に多くあり、好評な結果であったと考えました。

以上より、Hands on 講習会は、教育効果が高く有用な講習会であったことを報告致します。

19 精度管理ファントム研究部会 桜井 正晃
1. 日常の乳房超音波装置の精度管理をストレスなく行えるよう小型化ファントムをさらに改良した。
*改善点
・プローブの垂直性を確認するためのラインを追加
・温度計を内蔵した
・ドットターゲットを無くし、グレースケールターゲットのみ内蔵した。
・外装を透明にし、ファントムを見やすくした
2. 完成したファントムを部員6施設で検討し問題点を検討した。
・温度計のメモリが小さく見づらい。
・ファントムの付属品は各施設の検査室環境にあったものを選ぶように取り外しできるものを作成してもらう。
3. ファントムのデジタル評価を岐阜大医療科学大学の篠原範充先生に検討して頂いている。準備が整い次第、蓄積したファントム画像を解析してもらう予定となっている。デジタル評価は1カ月に一度行う予定。
4. 前回の試作ファントムを用いた検討をJABTS学会誌に投稿した。1月末掲載予定。
5. ファントム研究を倫理委員会へ申請準備中。

20 甲状腺結節D/W研究部会

甲状腺結節D/W検討部会では、現在、測定方法の統一化およびデータの集積を行っている。現状での測定における問題点抽出を目的に、第37回JABTSにおいてワークショップを開催

した。測定方法や実務的な問題点が抽出された。

新甲状腺結節超音波診断基準策定のための縦横比多施設共同研究

座長：福成 信博(昭和大学横浜市北部病院 外科)

WS4-1 甲状腺結節における縦横比(D/W)の有用性の検討
天野 高志(伊藤病院 診療技術部 臨床検査室)

WS4-2 「新甲状腺結節超音波診断基準策定のための縦横比
他施設共同研究」参加にあたって 山田 恵子(公益財団法人

がん研究会がん研有明病院 超音波検査部)

WS4-3 当科における、縦横比を用いた甲状腺結節性病変
の良悪性診断の検討 中野 賢英(昭和大学横浜市北部病院
外科系診療センター 外科)

WS4-4 甲状腺結節腫瘍径縦横比(D/W)の検討 村上 司
(野口病院)

WS4-5 甲状腺結節(腫瘤)の超音波診断における縦横比(D/
W)の診断的価値 福島 光浩(隈病院 外科)